

平成29年産水稻の西南暖地における早期栽培等の 作柄概況（7月15日現在）

高知県、宮崎県及び鹿児島県における早期栽培の作柄は、
『やや良』又は『良』の見込み

【調査結果】

西南暖地の早期栽培の作柄は、高知県及び宮崎県で『やや良』、鹿児島県で『良』が見込まれる。これは、田植期以降おおむね天候に恵まれたことにより穂数及び全もみ数が「やや多い」ないし「多い」と見込まれ、台風等の被害も少ないと見込まれるためである。

沖縄県の第一期稲の作柄は、田植期以降の低温・日照不足や虫害等の影響により『やや不良』が見込まれる。

表 平成29年産水稻の西南暖地における早期栽培等の作柄概況（7月15日現在）

区 分		平 年 比 較					田 植 期				出 穂 期				出穂 済面 積割 合		
		作柄 の良 否	穂 数 の 多 少	一穂 当 た り も み 数 の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期の比較		始 期	最 盛 期	終 期		最盛期の比較	
										対 平 年 差	対 前 年 差					対 平 年 差	対 前 年 差
高 知	やや良	多 い	平年並み	多 い	不 良	4. 3	4. 13	4. 22	日 1	日 2	6. 25	7. 1	7. 11	△ 4	1	% 97	
宮 崎	やや良	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み	3. 20	3. 26	4. 5	△ 1	0	6. 21	6. 28	7. 3	2	7	100	
鹿 児 島	良	やや多い	やや多い	多 い	やや不良	3. 19	4. 4	4. 15	0	0	6. 16	6. 29	7. 15	2	7	95	
沖 縄	やや不良	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	2. 18	3. 12	4. 8	7	7	5. 11	5. 25	6. 4	2	2	100	

注：1 本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや不良・やや少ない」が98～95%、「不良・少ない」が94%以下に相当する。

2 「最盛期の比較」欄の「△」は、平年（前年）より早いことを示している。また、「対平年差」は前5か年の平均値との比較である。

3 全国的水稻の収穫量に占める本表の4県における早期栽培等の割合は、平成28年産で1.0%となっている。

○ 西南暖地における早期栽培等とは、四国及び南九州の地域で主に台風による被害を避けるため8月中旬頃までに収穫する栽培方法並びに沖縄県における二期作の第一期稲である。

本資料は、農林水産省ホームページの「統計情報」から御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成 6 年法律第 113 号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和 22 年法律第 185 号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

◎ 累年データ

1 西南暖地における早期栽培等の10 a 当たり収量及び作況指数の推移

区 分	平成23年産		24		25		26		27		28	
	10a当たり 収 量	作況 指数	10a当たり 収 量	作況 指数	10a当たり 収 量	作況 指数	10a当たり 収 量	作況 指数	10a当たり 収 量	作況 指数	10a当たり 収 量	作況 指数
	kg		kg		kg		kg		kg		kg	
高 知	466	97	469	98	473	98	470	98	462	96	481	101
宮 崎	462	96	471	98	476	99	488	102	411	85	461	97
鹿 児 島	428	97	425	96	461	104	455	103	396	88	429	96
沖 縄	297	80	359	97	332	90	325	88	342	92	351	95

資料：農林水産省統計部『作物統計』（以下 2 まで同じ。）

注：1 10 a 当たり収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

2 作況指数は、平成27年産からは全国農業地域ごとに、過去 5 か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて 9 割を占めるまでの目幅（四国及び沖縄は1.75mm、九州は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。なお、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 西南暖地における早期栽培等の収穫量の推移

区 分	平成23年産			24			25		
	収穫量	早 期 栽培等	割合	収穫量	早 期 栽培等	割合	収穫量	早 期 栽培等	割合
	t	t	%	t	t	%	t	t	%
高 知	59,200	35,200	59	57,900	35,400	61	58,400	36,200	62
宮 崎	92,900	36,500	39	90,300	37,500	42	93,600	38,100	41
鹿 児 島	117,600	23,700	20	110,400	23,200	21	114,900	25,300	22
沖 縄	2,540	1,830	72	2,450	2,140	87	2,390	1,980	83

区 分	26			27			28		
	収穫量	早 期 栽培等	割合	収穫量	早 期 栽培等	割合	収穫量	早 期 栽培等	割合
	t	t	%	t	t	%	t	t	%
高 知	55,600	34,800	63	53,300	31,200	59	54,000	31,600	59
宮 崎	90,400	38,200	42	80,300	29,100	36	83,700	31,000	37
鹿 児 島	105,600	24,200	23	98,900	19,400	20	101,400	19,800	20
沖 縄	2,240	1,900	85	2,320	1,900	82	2,300	1,970	86

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作柄概況調査として実施したものであり、水稻の生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

西南暖地における早期栽培等の調査対象県は、8月中旬頃までに刈取りがおおむね終了する早期栽培の面積割合がおおむね3割以上を占める徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県並びに二期作栽培のうちの第一期稲の沖縄県としている。

なお、徳島県については7月15日現在の出穂済み面積割合が低く、穂数、もみ数等の作柄を判断する項目の調査が終了していないことから、表章していない。

3 調査対象筆数

作況標本筆：300 筆 作況基準筆：26 筆

4 調査事項

は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、茎数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

5 調査期間

平成29年7月15日現在における水稻の生育・作柄概況を調査した。

6 調査・集計方法

職員又は統計調査員による作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査により行った。なお、職員又は統計調査員による巡回・見積りにより実測調査結果を補完して取りまとめている。

7 用語の解説

- (1) 「作柄の良否」とは、10 a 当たり予想収量が平年と比較して多いか少ないかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (2) 「穂数の多少」とは、1 m² 当たりに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「1 穂当たりもみ数の多少」とは、1 穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1 m² 当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。

- (6) (2)から(5)までの平年比較とは、過年次の作況標本筆の実測調査結果から作成した1 m²当たり穂数等の平年値との比較である。
- (7) 田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。
- (8) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率である。
- (9) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいう。

8 利用上の注意

この統計表に記載された数値を他に転載する場合は、「平成29年産水稻の西南暖地における早期栽培等の作柄概況（7月15日現在）」（農林水産省）による旨を記載してください。

9 その他

本調査における作柄概況（7月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>】

この結果の分野別分類は「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類は「米」に分類しています。

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞政策統括官

http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/

お問合せ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3682

（直通）03-3502-5687

FAX：03-5511-8771

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画管理官 広報普及班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3589

（直通）03-6744-2037

FAX：03-3501-9644



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<http://www.e-stat.go.jp/>